

中田かわら版 3 月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

盛り上がる商店会活動

泉区で初めてのプレミアム付商品券も、大人気！

泉区内の 5 つの商店会が 12 月から 1 月末まで取り組んだ「プレミアム付商品券」発行が大好評で、商店街活性化の弾みとなっている。泉区では初の試みだったが、1 万円で 1 万 3 千円分の買い物ができる商品券は、用意した 500 セット（1000 円券が 13 枚＝計 1 万 3000 円分）が販売開始直後に売り切れる人気で、加盟店舗で 1 月末までにほぼ全額（650 万円分）が使用された。泉区商店街連合会と区役所では、この手応えに「消費者に喜ばれる企画」として今後も取り組みたいとしている。

中田地域の商店会は、**なかだ商店会、中田中央商店会、立場中央商店会**（和泉地域も含む）の 3 つがあるが、いずれも今回の取り組みに「消費者とのつながりをより深めることができた」などと評価し、毎年 2 月に展開している「応援ありがとうスタンプラリー」の盛り上がりにもつながってきたという（スタンプラリーは対象のお店 3 店舗で 200 円以上の買い物などをしてスタンプをもらって応募すると、抽選で 382 人に素敵な賞品が当たるイベント、2 月末で終了）。

今回のプレミアム付商品券販売の中心となったのが、中田中央商店会の会長で泉区商店街連合会の副会長を務める吉田礼児さん（52）。「手間や費用対効果に疑問の声もあったものの、まずはチャレンジしてみようと呼びかけ実現した。予想以上の反響があったことに会員の方々も取り組みに自信を深めている」と話す。最近の商店街活動の変化について聞くと、活動のスピーディーな情報共有にあるようだ。広く情報を届けるためネットを使った発信として X（旧ツイッター）を活用しているほか、役員会の連絡も「みんな忙しいので LINE を使ってオンラインで意見交換している」ので、商店会として判断することが早くでき、活動の幅も広がっている。この判断の早さは被災地支援にも生かされた。

能登半島地震の被災地支援で素早く募金活動も

正月に起きた能登半島地震では、「被災地への支援を商店会としても何かしたい」という声に、「会員の寄付だけではなく、まずは店頭で募金をしてはどうか」という提案があり LINE で議論、さっそく実施することをオンラインの役員会で決め、素早く具体化したという。店頭で募金箱を置き、X でも発信した。

募金の呼びかけを知った中田小学校の先生からは、「児童なども募金活動に取り組むことになったので学校からの支援も一緒にしてほしい」と連絡があり、協力し合って募金活動を広げているようだ。

昨年 11 月には「中田中央商店会新聞」という紙媒体の発行もしており、こうした商店会の多様な情報発信活動が商店街に活気をもたらしている。



募金活動を呼びかける吉田さん

(鈴木賀津彦)

<あなたも編集に参加しませんか！>

住民参加で多様な記事掲載

200号を迎えた『中田かわら版』は、創刊以来毎月休むことなく発行を続け、多くの皆さんに読んでいただけるよう各町内での掲示や回覧などでお手元に届くよう工夫してきました。これからも地域の生活に役に立つ情報を伝えるため、編集委員会の活動を充実させていきます。あなたも編集委員になってみませんか、気軽に参加ください。

<編集委員が振り返る200号>

毎月の編集会議で掲載記事の予定を決め取材・執筆に取り組む編集委員、現在のメンバーは9人です。創刊当初からの人から一昨年活動を始めた委員までいて関わり方も様々。これまでの編集活動をそれぞれが振り返りました。（NPO 法人「ジョイカンパニー」の関根正男さんに7人の編集委員（田中委員以外）の似顔絵を描いてもらいました。ご協力に感謝します）



◆宮田貞夫 200号はやっぱりスゴイこと。編集委員1人ひとりの力の結集でできるものです。すばらしい仲間と仕事できるのを誇りに思っています。



◆河内満明 いわゆるマスメディアが取り上げない、地域の小さい情報を拾い、丁寧にお知らせしようと心がけています。



◆松本正 「地域貢献している方がたのお話しは自分の励みにもなります。沢山の出会いが楽しみです。



◆松本純子 「この人に会いたい」はほとんど中田在住の方。中田にはこんな素晴らしい人がいることを知る良い経験をしています。



◆小島敏子 おばあさんの主婦です。毎月の編集会議は情報の宝庫。飛び交う言葉のやりとりに、好奇心は大満足です。



◆鈴木賀津彦 創立50周年の中田中を取材、生徒が決めたキャラクターを記事にしました。生徒の活動をもっと地域に発信したいですね。



◆田中進 「昔ながらのかわら版」は中田の街の情報誌。「中田にはこんな店がある」「こんな人がある」「こんな場所がある」をこれからも伝えていきたい。



◆嶋宏之 お一人でも多く紙面をご覧いただけるようPRにも注力していきます。

<「かわら版」の紙面は中田連合自治会のホームページでもご覧いただけるようになりました。> <https://nakadarengo.yokohama/>
<踊場地域ケアプラザのホームページの「情報誌ダウンロード」欄で、平成19年の創刊号からの紙面を見ることができます。> <https://www.odoriba-cp.jp/publication/>



◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本正

編集委員；山木重樹、小島敏子、田中進、河内満明、松本純子、鈴木賀津彦、嶋宏之